

Dコース（ポスト巡検）

「紀伊半島西部の三波川帯・中央構造線・領家帯」

日 程： 8月24日（月）日帰り
集 合： 8：30 JR 阪和線「和歌山駅」東口前 ロータリー
解 散： 16：00 JR 阪和線「日根野駅」
定 員： 8名 最小催行人数： 5名
費 用： 3,000円

案内者：高須 晃（山陰支部，島根大），奥平敬元（大阪市大）

観察地点：岩出市（根来寺），紀の川市，かつらぎ町（船岡山），岸和田市河合町

見どころ：紀の川（紀ノ川）は、奈良県に源を発し、和歌山県北部を経て紀伊水道まで、大局的にはほぼ直線的に西流する大河です。地質的にみると、紀の川は西南日本内帯と外帯を分ける中央構造線に伴う一種の構造谷といえます。



写真：角礫岩様構造を示す蛇紋岩。露頭で堆積岩起源かカタクラサイトか議論します。

中央構造線の南側（外帯）には三波川帯が分布します。三波川帯は、白亜紀の低温高压型変成帯で、パンペリ石-アクチノ閃石相から緑色片岩相、藍閃石片岩相、緑れん石角閃岩相を経てエクロジャイト相に至る変成岩から構成されます。また、蛇紋岩、かんらん岩などの超塩基性岩体や変斑れい岩体を伴います。

中央構造線は南の三波川帯と北の領家帯の境界に位置し、白亜紀より活動をはじめ、第四紀後半に至るまでくり返し活動してきました。一連の活動は現在にまで継続し、中央構造線活断層系を形成し

ています。

領家帯には白亜紀に形成された低压高温型（紅柱石-珪線石型）の変成岩と領家花崗岩類が分布します。領家帯はその北部でジュラ紀付加コンプレックスである丹波帯に漸移しています。九州から紀伊半島西部の領家帯の南縁部には、白亜紀の中央構造線の左横ずれ変位に伴って形成されたプルアパート・ペーズンに堆積した和泉層群（上部白亜系）が分布しています。したがって、紀伊半島西部では中央構造線は三波川帯と内帯要素である和泉層群の境界断層となっています。

巡検では、紀伊半島西部の三波川帯、中央構造線、領家帯の見学を行います。三波川帯では、エクロジャイト相の変成作用（590℃、1.3 GPa）によって形成されたざくろ石角閃岩、オリゴクレーヌ-黒雲母帯の泥質片岩、角礫岩様の構造を示す蛇紋岩（写真）などを見学します。中央構造線では、和歌山県岩出市根来寺の南に位置する右横ずれ活断層である根来断層（中央構造線活断層系）を観察します。領家帯は大阪市大の奥平敬元氏の案内で、大阪府岸和田市河合町南方に分布する水間花崗閃緑岩体の弱変成花崗岩類からウルトラマイロナイトまでを連続的に観察し、地殻の歪み軟化過程

を議論します。巡検当日天気が良ければ、三波川帯側の丘陵より、三波川変成岩、中央構造線（構造谷である紀の川）、そして内帯要素である和泉層群の分布とそれらが形成する地形の大パノラマを一望することができます。（山陰支部 高須 晃）